



(池田)

名画の扉

その後、44年に召集を受け、5月に行われた壮行会には画友であつた松本竣介も出席しました。46年、譲光は上海の陸軍病院で戦病死し再び日本の地を踏むことはありませんでした。

数制作しました。

文化・芸術

植物の間を見え隠れするようにひらひらと飛んでいる黒いチョウ。花や葉はむせかえるような生命力にあふれ、画面に生い茂っています。その背景は上下で明暗が分かれ、チョウの黒い身体が画面下の暗闇に溶け込んでいくようにも見えます。その姿はあるで、生と死のはざまを行き来しているかのようです。

譲光は広島県に生まれ、192

4年に上京した後、太平洋画会研究所で絵を学びます。はじめはフオービスマやキュービズムに傾倒していましたが、「眼のある風景」(38年、東京国立近代美術館蔵)のようなシュールレアリズム風の絵を描くようになりました。40年からは宋画風といわれる東洋画からの影響が見られる静物画を描き、チョウをモチーフとした作品を多

譲光 (あいみつ)
(1907~46年)

「花と蝶」
1941~42年ころ、油彩・カンバス
72・6^{セイ}×60・8^{セイ}
(練馬区立美術館蔵)

大川美術館企画展から